

平成 29 年度児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会 議事録

平成 29 年 11 月 14 日

- 1 学校歯科医会会長、施設給食課長ご挨拶
- 2 委員紹介
- 3 議題

(1) 「平成 28 年度児童生徒の歯と口の健康事業実績調査 結果報告」

事務局（資料 1 を説明）

- ・資料 1 については、秋の臨時健診および給食後の歯みがき等に関する実績調査であり、小学校全 65 校と、中学校全 34 校でアンケート形式の調査を行った。
- ・小学校については、秋の臨時歯科健診は昨年度より 1 校増え、65 校中 43 校が実施したと回答しており、実施できなかった学校については、行事が多く時間の確保が難しいと言った点が最も多く、また、定期健康診断の結果が良好なためといった意見もあった。
- ・給食後の歯みがきについては、小学校は昨年度より 5 校増え、65 校中 15 校が実施したとの回答であった。実施している 15 校の内、学校全体で実施している学校は 2 校、一部の学年で実施している学校が 9 校、期間を区切って実施している学校が 3 校、一部の学年で期間を区切って実施している学校が 1 校、という結果であった。
- ・今後の、給食後の歯みがきについて児童に向けた推進方法として、「保健だより」等で推奨していくといった回答が最も多く、他には歯科保健指導時の呼びかけや、安全面、衛生面からブクブクうがいを推奨しているという回答であった。
- ・給食後の歯みがきを実施していない理由として、多くの学校が水道数・時間が足りないという回答であった。
- ・その他歯みがき以外に取り組んでいることとしては、歯みがきカレンダーの作成やポスターの応募などの啓発の取り組みや、歯垢染色テストや RD テストなどの歯科保健指導の実施を行ったとの回答であった。
- ・RD テストについては、カリオスタットの代わりとして始めたところだが、実施した学校からやってみた後のご意見やご感想などをこの場を借りてお聞かせいただきたい。

中学校養護教諭

- ・本校は RD テストが初めてで、概ね生徒は興味深くやっていた。先生方にも好評であった。
- ・改善点については特にない。

学校歯科医

- ・本校では 3 年前から使っており、秋の健診時に小学校 5 年生の健診の際に私が唾液をとって指導している。

- ・健診が終わったら15分ぐらい経っているのを見ていくが、終盤に健診した児童は、健診後15分経つまで待たなければならないので、秋の健診時以外で上手くできないかという検討をしている。
- ・RDテストは口の中に「むし菌」をつくる菌がどれだけ多いかを判定するので、「むし菌」のしやすい児童に陽性反応が強く出れば良いが、その関連関係はまだよくわからず試行段階である。
- ・本人以外の周りの子どもが見たがって判定結果を見ようとする。我々はまわりからわからないように判定しているつもりだが、5年生だとほかの児童の結果を見たがってしまう。それでからかわれることはないが、その人以外にはわからないように判定結果が教えられるようにすることが課題となっている。
- ・唾液がいっぱいである児童は良いが、なかなかでない児童もいて、その難しさがあるが、カリオスタットよりは簡便ではある。

事務局

- ・秋の健診以外にということであれば、独自にという形になるのか。

学校歯科医

- ・小学校5年生で小学校歯みがき大会を7年くらいやっているが、今年はDVDで好きな時間にできるので、上手くやれば、1校時の中で名前を書いて提出してもらい、後日、判定した結果を渡せば個人情報も守れるかなと考えている。

事務局

- ・そういった工夫についてのお話をいただければ、全体に情報として流していきたい。

学校歯科医

- ・やり方の選択については、養護教諭と学校歯科医で検討して一番妥当であると思うものを選んでいただきたい。

事務局（資料1の説明続き）

- ・中学校では、秋の臨時歯科健診は昨年度より1校増え、34校中10校が実施したと回答しており、実施できなかった理由は小学校と同様に、行事等で時間の確保が難しいといった点が多く挙げられた。
- ・給食後の歯みがきについては、中学校は昨年度より3校増え、34校中7校が実施したと回答している。実施している7校の内、学校全体で実施している学校は1校、一部の学年で実施している学校が2校、期間を区切って実施している学校が4校という結果であった。
- ・今後の、給食後の歯みがきについて生徒に向けた推進方法として、小学校と同様「保健だより」等で推奨して行くという回答がほとんどだが、中には「保健委員会による呼びかけ」といった回答もあった。
- ・給食後の歯みがきを実施していない理由として、小学校同様、多くの学校で水道数・時間が足りないという回答だった。
- ・その他歯みがき以外に取り組んでいることとして、ポスターや掲示物等での啓発や、受診勧告書の再発行をし、受診を促すとの回答があった。

事務局（資料2を説明）

- ・資料2は小学校で配付している良い歯のバッジについての実績調査の結果である。

- ・良い歯のバッチの配布率については、平成 28 年度は小学校全校を平均すると 93.7%の 配布率となっており、昨年度と変わらず、90%を超える高い配布率を保っている。
- ・バッチの配布時期は、春の定期健康診断後の 6 月に配布した学校が最も多く、また、2 回目の配布は、「むし歯」を治療してきた児童に配布すると回答した学校がほとんどであった。
- ・配布率が低い学校について、配布状況を確認したところ、随時配布をした児童数を把握していなかった学校が数校あったので、今年度以降の実績調査をする場合に、随時配布した児童数も把握するよう依頼した。来年度の配布率は変わってくるのではないかと思われる。

学校歯科医

- ・秋の健診は、今年度は小中学校で 1 校ずつ増えたので、少しでも進展があったということは良いと思う。
- ・先生方から去年と同じような意見はいただいているが、学校歯科医会では、できれば秋の健診は必要に応じてやっていただきたいというのが要望である。
- ・中学校の場合は、授業等の問題もあるので、やるかやらないかについては、学校歯科医の先生、養護の先生、学校長の先生方の意見を集約して、学校で指針をまとめてやっていただきたい。

事務局

- ・出席している先生方で、秋の健診をやっていない学校については秋の健診について意見や問題点を、また、やっている学校については、工夫している点をお話いただけるとありがたい。

小学校養護教諭

- ・本校は今年度、良い歯のバッジを 100%配布した。
- ・元々地域的に意識の高い学校で、6 年生卒業までには「むし歯 0」ということを何年も続けており、去年はあと 3 人くらいのところで校長先生のゼロにしようという一声があり、個人に働きかけて 0 人にした。
- ・このような状況なので、秋の健診に時間をとって学校歯科医の先生に来てもらうよりも、その時間で 6 年生のフロス指導を 12 月に 2 時間ほどしていただいている。
- ・今年は巡回の歯科衛生士さんから洗口液が東日本大震災の時に役に立ったという意見があり、洗口液も授業で紹介しようかと考えている。

(6) 給食後の歯みがきの推奨について

※給食後の歯みがきについての意見等があったため、先に報告を行った。

① 給食後の歯みがきの視察（杉並区立小学校）について報告

事務局（資料 6 ①を説明）

- ・杉並区で「歯みがき推進モデル校」として、積極的に給食後の歯みがきに取り組んでいる小学校を視察し、給食後の歯みがきの実施方法について調査を行った。
- ・桃井第一小学校では、4 限目終了の 12 時 20 分から 13 時までの 40 分間が給食時間となっている。
- ・コップと歯ブラシは各児童が袋に入れて自己管理をしており、衛生面の心配から、歯ブラシ置きは

設置していない。

- ・給食が終了する3分前（12時57分）に歯みがきをする時間を知らせる校内放送が流れる。
- ・校内放送が流れる前にも、給食を早く食べ終わっている児童は歯みがきを始めていた。
- ・校舎2階と3階の廊下に水道（蛇口）は各7個設置されているほか、各教室内に水道（蛇口）が2個設置されていた。
- ・水道（蛇口）数は26学級×2+7（廊下設置分）×2=66個となり、水道（蛇口）1口に対し、約12名分（769名÷66個）となるため、水道（蛇口）の数としては少ないと思われたが、給食を早く食べ終わっている児童から歯みがきを始める工夫や歯みがきを自席で行うことにより、教室内の2個の水道（蛇口）でも混雑するという状況は起こらず、廊下の水道（蛇口）を使用する場合もほとんどなかった。
- ・結果として、水道（蛇口）が少ない場合であっても、給食が終わった児童から順次歯みがきを行うなどの工夫により、給食後の歯みがきを全学年で行うことも可能であると思われるが、混雑する状況が起こることも想定し、水道（蛇口）数が少ない学校は、改築する際に教室の前に水道（蛇口）を一定数確保する必要がある。
- ・水道（蛇口）の数を増設できるのであれば、改築を行う学校に対し、練馬区学校歯科医会、練馬区教育委員会が、校長先生にインフルエンザ予防の手洗いとうがい、そして給食後の歯みがきを実施してもらうことを了承してもらう必要がある。

② 小中学校の水道（蛇口）の設置状況について報告

事務局（資料6②を説明）

- ・給食後の歯みがきを実施できない理由として、水道（蛇口）の数が足りないという理由が多いため、学校内における水道（蛇口）の設置状況調査を行い、各学校からの回答に基づき、給食後歯みがきのために必要な水道（蛇口）数について検討を行った。
- ・校舎内の流し・水飲み場について、表1の「水道（蛇口）1口あたりの児童・生徒数」では、水道（蛇口）1口あたりの児童・生徒数が10人未満の学校が小中学校合わせて65校と多かった。
- ・表2の「児童・生徒数の規模別水道（蛇口）1口あたりの児童・生徒数」では、児童・生徒数が少ない学校は、給食後の歯みがきを行うための水道（蛇口）数が確保できているが、児童・生徒数が多い学校は、水道（蛇口）数が少ない学校が多かった。
- ・水道（蛇口）数が多い学校でも、設置個所については、普通教室から離れた位置に設置されているなど、給食後の歯みがきに適さない場所に設置されている可能性がある。
- ・練馬区学校歯科医会からの参考意見では、水道（蛇口）1口あたり7人としているが、今後の改築を行う学校施設の標準化が進められている中で、廊下の水道（蛇口）スペースをどこまで確保できるかは、各学校の規模や生徒数によって異なると思われる。前述のとおり、水道（蛇口）数が少ない学校は、児童・生徒数が多い学校に多く、水道（蛇口）1口あたり7人とすると、水道（蛇口）数の確保が困難な可能性がある。
- ・そこで、学校を改築する際には、水道（蛇口）数を児童・生徒7～10人に対し1口確保し、さらに、流し・水飲み場の設置場所について、給食後の歯みがきをする際に教員が口をゆすぐ児童・生徒を教室から目視で確認できる場所に設置するよう、施設整備担当係と基本設計時に調整を行うフローを検討する。

事務局

- ・改築する学校については水道（蛇口）も設計の中で検討をするが、建築費用がかなり大きくなるため、共用部分をなるべく少なくし延床面積を圧縮する改築となる。
- ・そのため、最近では、廊下を挟んで南側を普通教室、北側を特別教室とするような設計をする学校もある。
- ・こういった課題があるため、今後、水道（蛇口）の確保もこういった場所にどのくらいつくるのか学校の状況によっても異なるが、合わせて検討していきたい。
- ・現在、築年数が50年を超えている学校が全体の4割となる。
- ・教育委員会では、年間2校ずつ改築に着手するという計画を立てている。改築の順番については、来年度ぐらいにはお示しできると思う。
- ・このような中で、水道（蛇口）の確保については、1口7人というのはなかなか難しいが、ご意見を踏まえて精一杯頑張りたい。

学校歯科医

- ・ここまで踏み込んだ計画をしていただけていなかったもので、大変前向きに考えていただき感謝している。

学校歯科医

- ・報告をみると、意外に水道（蛇口）の数が多い学校があるということが分かったし、水道（蛇口）の数が少なくても杉並区のようにすれば歯みがきできるということも分かった。
- ・1口あたり7人という基準は厳しいが7～10人あれば歯みがきも十分可能ではないかと思う。
- ・水道（蛇口）数の調査結果について、給食後の歯みがきが実施しやすい学校も把握できるため、学校名がわかるものをいただきたい。

事務局

- ・水道（蛇口）の数については、位置的な問題もあるので、1口あたりの数があるからといっても実際には歯みがきに使えるところは、そこまではないと考えていただきたい。
- ・公共施設の標準化のなかで、真ん中に廊下を通すというのが教育委員会で課題になっており、廊下の両側に教室があり、それらを柱で支えるという構造的な問題がある。水道（蛇口）を増やすといっても構造的に入らないというところもあるので、その中で最大限どこまで配慮できるかを検討している。そういったところをご理解いただきたい。
- ・杉並区の例もあるので、水道（蛇口）の数が少なくてもやり方次第というところもあるので、そういったところもあわせてご検討いただきたい。
- ・水道（蛇口）数の調査結果については、学校名が入ったものを作成次第配布する。

学校歯科医

- ・避難拠点である小中学校に区民が避難してきたときに水道（蛇口）がある程度確保しておかなければいけないと思う。
- ・豊島区では、避難を踏まえて学校の改築をする際に水道（蛇口）数について設計を考えるそうなので、練馬区でもそういった設計をしていただければ給食後の歯みがきにも活かせると思う。

事務局

・昨年度から水道局で水道管の耐震化に取り組んでおり、今年度も何校か学校と直接やり取りをしているところもある。避難場所となる小中学校の体育館でも、水道の蛇口数まで確保できるかは難しいが、水道供給の確保は進めている。

学校歯科医

・廊下の両側に教室を設けるのは、費用の面で仕方ないと思うが、豊島区ではオープンスペースを設けて放射状に水道（蛇口）を利用できるように設計した学校があり、避難時にも活用でき、給食後の歯みがきにも実際に利用しているということだったので、これも一つの方法だと思う。

学校歯科医

・豊島、杉並、品川あたりは斬新で前向きな設計を考えており、そういったところも一度視察をしてみても良いと思う。
・区の教育委員会で、児童・生徒のために1年に2校ずつ改善していくという姿勢についてはうれしく思う。

（2） 平成 29 年度 児童生徒の歯と口の健康事業実績調査の実施について

事務局

・議題 1 の実績調査については、平成 24 年度から 5 年間実施してきた。
・良い歯のバッチの配布率調査については、歯と口の健康推進事業の成果指標でもあるので、今後も続けていきたいと考えていますが、秋の臨時健診および給食後の歯みがき等に関する調査を踏まえ、29 年度もこの実績調査を実施するという事で良いのかご検討をお願いしたい。

学校歯科医

・実績調査の実施については、29 年度もぜひ続けてほしい。

（3） 平成 29 年度歯みがき巡回指導 中間報告

歯科衛生士（資料 3 を説明）

・10 月 31 日現在で、小学校の歯みがき巡回指導は残り 3 校となっている。
・資料 3 の見方として、「学年」、「クラス数」、「実施児童数」となっており、「形式」は小学校では各クラス単位で行っている。「主な使用教材」は、パワーポイントで健康教育をした後、歯垢染色テストを液体または錠剤で行った学校と、歯みがき指導だけを行った学校も一部あった。
・小学校では、実施学年は 3 年生、4 年生が多いが、中には 1 年生、5 年生、6 年生の学年もあり少し変化が見られた。
・中学校では、1 学期に実施する学校は少なく、秋以降もしくはこれからという学校があり、半分程度の実施となっている。

・中学校の実施学年はほとんどが1年生となっている。また、中学校では生徒数が多くいたり、時間数が取れないといった関係で、学年合同で健康教育を実施する学年もあれば、クラスごとに健康教育と歯垢染色テストまたは、これから行う予定ですが、RDテストといったように各学校で異なる内容になっている。

学校歯科医

- ・歯みがき巡回指導については各学校から大変評判が良いことを聞いている。
- ・これからも児童生徒の口腔内の健康維持のために続けていただきたい。

学校歯科医

- ・歯垢染色テストを行う際にアレルギーのある児童・生徒についてはどのように対応しているのか。

歯科衛生士

- ・アレルギーのある児童・生徒については、事前に養護教諭の先生に確認をさせていただいており、歯垢染色テストについてのアレルギー報告は少ないが、絶対ないというわけではないので、心配で受けない児童・生徒がいる場合には、歯垢染色テストはせずに歯みがき指導や歯肉の観察をしている。
- ・矯正をしている児童・生徒が増えており、歯垢染色テストの希望を学校側に確認してもらい、児童・生徒が希望しない場合も実施をしないようにしている。

学校歯科医

- ・RDテストはどのように唾液をとっているのか。

歯科衛生士

- ・基本的に各自でとってもらっている。小学校では、巡回指導でRDテストの実施を希望している学校はなく、中学校では実施の際、ベロの体操をして唾液が出るようにして、各自でとってもらいが、なかなか唾液がとれない生徒もいるので、取れない生徒に対しては歯科衛生士がとっている。
- ・15分の待ち時間を考慮し、一斉に滴下して一斉に判定を行っている。
- ・学校によっては紙コップに出してから判定をしている学校もある。

(4) 小学校、中学校歯みがき巡回指導の実施に関するお願い

歯科衛生士（資料4を説明）

- ・日程、内容の決定については、必ず学校歯科医と打ち合わせし、学校内での調整もお願いしたい。
- ・実施学年について、歯みがき巡回指導は一学年のみ対象、特別支援学級については普通学級と同学年の児童、生徒を対象として実施する。
- ・特別支援学級の巡回指導の実施形態は、普通学級の児童・生徒と同じ教室で一緒に実施することが可能。また、特別支援学級単独で実施することもスタッフの都合や時間の都合がつけば可能となる。担当の保健相談所の歯科衛生士へ相談してほしい。

- ・今年度は中学校で1校、特別支援学級の生徒を対象に実施した。
- ・実施時間の設定については、実施時間は2校時以降で設定する。また、クラスごとに実施する場合、3クラス以内では1クラスずつの実施とし、4クラス以上では同時に実施できるのは2クラスまでとする。
- ・実施内容について、歯垢染色とRDテストは、どちらか一つのみを選択し、クラス単位での実施とする。また、大幅な実施形態の変更（例、学年合同実施→クラス毎の実施）には対応できない場合がある。なお、特別支援学級の実施は、担当の保健相談所へ相談する。

学校歯科医

- ・個人的な意見だが、近年、特別支援学級の児童・生徒の口腔内の清掃状態が良くなっている。
- ・いろいろな面で特別支援学級については、データも多くなってくるので、注目をしてみていただければと思う。

（5）平成30年度歯みがき巡回指導日程調整決定までの流れ

歯科衛生士（資料5を説明）

- ・学校保健係から実施校へ文書発送（11月下旬）をする。
- ・小学校は保健相談所から、中学校は健康推進課から日程候補日、実施内容等の調査の文書を発送（12月上旬）する。
- ・実施校（養護教諭）と学校歯科医で巡回指導の候補日と指導内容の打ち合わせしていただく。
- ・実施校からの回答（日程希望日・実施内容）（1月上旬）をいただく。
- ・実施校へ日程決定の連絡（1月末）をする。
- ・保健相談所から実施校へ確認の連絡（4月）をする。
- ・保健相談所から実施校へ打合せ日程を決めるための連絡（実施日の1か月前頃）をする。
- ・実施校との打ち合わせをする。

（6）給食後の歯みがきの推奨について

③ その他（フッ化物洗口剤等について）

学校歯科医

- ・若年層の食生活でスナック菓子のような軽いものを食べる、また、スプーンとフォークを使った食事が増えたことで、ものをかみ砕くということが少なくなっている。また、ある国によっては、食事をしながら清涼飲料水を飲むというように、食事形態が変わってきた。
- ・WHOでは成人においては、清涼飲料水250ミリリットル以内と提唱しており、糖分に換算すると25グラムとなるが、現在の6歳～12歳は約79グラムと過剰に摂取している。
- ・改善をするためには歯の質を強化することが大切であるという考えが全国的となっており、幼稚園でもどんだんフッ化物洗口を行っているという発表がみられる。
- ・東京でフッ化物洗口が普及していないのは、中規模校、大規模校が多いため、フッ化物洗口剤の使用

になかなか踏み込めないところにある。

- ・地方では小規模校が多いため、保護者、養護教諭は「むし歯」の罹患率をなるべく減少するためフッ化物洗口を行っている。
- ・フッ化物洗口により、ある程度の年数が経つと歯質の強化につながり、将来的に 8020 から 9020 になるのではとの話まで進んでいる。
- ・フッ化物洗口剤の利用となると薬剤師の指導も必要となるが、まずは学校長の考えが一番重要である。
- ・今後、都内の児童の減少に伴い、フッ化物洗口が推奨しやすくなると思うので、先生方に導入をお考えいただきたい。
- ・全国大会では、フッ化物洗口の話がたくさん出ているが都内ではほとんど聞かない。機会があれば全国大会に出席してみたい。
- ・中学生以降ではカリエスが増えている傾向があり、学校歯科医会では、将来的に考えてフッ化物洗口の導入を検討してほしいと考えている。

事務局

- ・溶剤をつくる手間や学校での管理体制などのさまざまな課題があると感じており、今回初めての議題なので、今後の検討課題とさせていただきたい。

学校歯科医

- ・管理の問題については、薬剤師と養護教諭で話し合いながら、学校歯科医会も関与していく。
- ・費用の問題もあるが、安価なのでそれほど負担にはならないと思われる。

事務局

- ・まず、保護者の理解を得られないと進められないと思われる。
- ・保護者への説明には、薬剤師の先生だけでなく、学校歯科医の先生からの説明が必要であり、また、学校長、教員の理解も必要なので、ハードルは高い。

学校歯科医

- ・今後、学校保健会の中で、学校歯科医の先生方から意見を述べて、徐々に進展させていこうと考えている。

事務局

- ・フッ化物洗口剤についての研究発表なども併せて周知をしていくといった段階を踏んでいく方が良いと感じる。
- ・今後の流れとしては悪い方向ではなく、できる場所では検討してみることも必要であると感じる。

4 その他

- ① 全国小学生歯みがき大会参加のご案内について（参考）

事務局（資料 7 を説明）

- ・文書連絡にて送付済みであるが、第 75 回全国小学生歯みがき大会参加小学校募集についてのご協力をお願いについて、参考として再度周知した。
- ・参加費用が無料、1 校時で実施可能、期間内であれば実施日時が設定可能など使いやすいものになっている。
- ・ライオン歯科衛生研究所のホームページから前回のダイジェスト版もみることができるので、興味のある先生方は、この大会に参加して学校歯科保健活動に役立てていただければと思う。

② 教育だよりについて

学校歯科医

- ・教育だより 181 号で学校歯科医会役員と学術委員会で「むし歯は夜つくられる」という記事を掲載したので、先生方に一度読んでいただき、児童・生徒へも説明をしていただきたい。
- ・要望すれば事務局で記事を準備していただけるので、是非一読をお願いしたい。

③ 歯科健康診断の結果のお知らせについて

中学校養護教諭

- ・平成 23 年ごろから歯科健診について、要観察（歯肉や）の生徒にも歯科健診のお知らせを出しており、「むし歯」が減っている中で、次の課題として学齢期後にいかに「むし歯」を増やさず、歯と口の健康を保つということでは良い試みであると思う。

しかし、歯肉の状態が「1」の要観察の生徒にもお知らせを出すときには「歯肉炎があります」という表記で出すが、それを見た保護者が実際に歯医者へ診察してもらったところ、異常なしとの結果であったため、クレームがあった。

そのため、歯科健診のお知らせについて、「1」も「2」もどちらも「歯肉炎があります」という表現は、保護者や学校歯科医以外の先生にはわかりにくいと思うので、見直しを検討していただきたい。

- ・学校歯科医同士のつながりは大変良いと感じるが、練馬区の歯科医がすべて学校歯科医ではないと思うので、そのような歯科医に対して練馬区の学校歯科の考え方として、異常がない児童・生徒にも受診勧告をしていることを理解してもらい、歯みがき指導などに積極的に取り組んでもらいたい。

学校歯科医

- ・平成 23 年当時に歯科健診のお知らせについては、いろいろな問題があり、この委員会に諮って改訂を行ったという経緯がある。

・学校歯科健診は診断ではなくスクリーニングであり、学校生活をするうえで問題があったら早めに治療して健康な生活が送れるようにすることが目的である。

・健診結果のお知らせの最初の 2 行には、かかりつけの歯医者を含め、学校だけで完結せず、地域全体で子供たちの健康を守っていかうという考えを示している。もう一つには健診結果は確定した診断ではないことも示している。このことを保護者の方へ理解してもらってほしい。

・今のシステム上では、「GO」も健診結果のお知らせでは、「歯肉炎があります」となってしまうが、確定した診断ではなく疑いがあるということ、また、学校歯科医は春と秋の健診だけでは、通年を通して児童生徒の口腔内を診ることはできないので、かかりつけの歯医者へ定期的に受診をしたり、歯みが

き指導を受けてくださいという意味合いも含んでいる。

- ・どうしてもわかりにくいということであれば改訂するのも良いと思う。

中学校養護教諭

- ・ヒアリングをした養護教諭からは、その学校は未処置歯の生徒が全体で2～3名しかいないが、健診結果のお知らせを9割ぐらいの生徒に配っている。
- ・歯科の状態がとても良く、子どもの歯は保護者がしっかりと守るという自負が強い地域では、お知らせの丁寧な説明を見る前に動揺してしまう保護者もいるため、確かに学校での健診はライティングも含めて万全ではないが、健診票では「0」、「1」、「2」と分けているので、お知らせにも程度を示す表記をしても良いのではと感じるので、是非ご検討いただきたい。

学校歯科医

- ・学校歯科医会でライトを配ったりして健診精度は上がったが、診療所のライトを使ったり、レントゲンを撮ることは学校ではできないので、「CO」や「GO」がある場合には、歯医者へ行って診てもらうのが筋だと思う。

学校歯科医

- ・学校では判定はなかなか難しい。思春期性の歯肉炎ということもあるので、お知らせを出すことは「歯みがきをしましょう」というメッセージとして保護者には考えてほしい。
- ・練馬区歯科医師会の先生は、ある程度レクチャーを受けているが、練馬区歯科医師会に入っていない200名前後の個人の先生は、個々人の考え方で話すので誤差が生じる。
- ・健診結果のお知らせは、これから家庭内で行う予防であるという気持ちをもって接していただきたい。
- ・歯医者へ行って診てもらい、大丈夫と言われれば安心にもつながり、今後しっかりとブラッシングをしていただければと思うので、保護者には冷静に判断をしていただきたい。

学校歯科医

- ・隣接面の「CO」は学校歯科健診も歯科医院での健診でも差はないが、咬合面での「CO」はレントゲンを撮ると「C3」に近いものがあるので、「CO」や「GO」でも早めに歯医者へ行くことが基本であると思う。

学校歯科医

- ・練馬区歯科医師会の会員ではない歯科医であれば、健診結果のお知らせを見ても、何も異常なところはないと思ってしまうので、区内の歯科医全員に健診結果のお知らせについて周知はできないか。

事務局

- ・例えば、教育長名で教育委員会から各歯科医へ通知をしても、驚かれる先生もいるかもしれない。
- ・学校歯科医会の連名にするなど、周知の方法については検討が必要である。
- ・全歯科医師の名簿は、保健所にはあるかもしれないが、保健所の専門領域もあり、どのように考えるかということもあるので、取扱いには検討が必要である。

④ 委員会全体を通しての意見

小学校養護教諭

- ・巡回指導は隔年ではなく、毎年実施してもらいたい。
- ・この委員会がベースになっているので、小学校卒業までに「むし歯」をなくすことを目標に、学校歯科医の先生が学校へ来てくれることも多く助かっている。

小学校養護教諭

- ・この委員会で率直な意見交換ができてありがたい。
- ・本校の学校歯科医も好意的に歯科指導をしていただいている。
- ・学校行事と学校歯科医のスケジュールとの関係で、秋の健診はなかなか実施できていないので、実施について検討したい。

学校歯科医

- ・秋の健診では、「むし歯」がない児童・生徒がほとんどで、「むし歯」のある児童・生徒は数パーセントしかいない。そういった子だけでも健診結果のお知らせをもらった後に治しているかどうかは診ておく必要はあると思う。
- ・最終的には児童虐待といったことにつながるかもしれないので、できる限り健診はしてほしい。

小学校養護教諭

- ・本校は、齲歯の罹患率は低く、治療状況もよく、ほとんどの児童がかかりつけの歯科医がいて定期的に診てもらっている地域である。
- ・一方で、いつまでも「むし歯」を治さない全児童の数パーセントにどのようにアプローチしていったらよいか課題となっている。
- ・低学年の中で、ほとんどの児童が「むし歯」を治しているため、良い歯のバッジがクラスで一人だけもらえないという状況があった。本人の意識よりも家庭の意識の問題であるため、もらえない本人が傷つかないように、保護者への働きかけや学級での配布の仕方等よい方法を考えていけたらと思う。

小学校長

- ・健診結果のお知らせを渡す子供たちへの工夫をすれば解決しやすいのではないかと。
- ・健診結果のお知らせも個人情報なので、お知らせの用紙が色分けされているのは良くないのではと感じている。
- ・お知らせ渡す段階で、児童にスムーズに渡って誤解のない文章にすることが一番良いと思う。

事務局

- ・用紙の色については、色分けをした方がわかりやすいということで、そのようにした過去の経緯があったと思う。
- ・色がついていることで児童・生徒が傷つくことになるのであれば、色の変更について検討をする必要はあると思う。

以上